



Title	第一部 通史 . 第四編 キャンパスの変遷 . 第一章 東京芝増上寺内の開拓使仮学校 一八七二~一八七五年
Citation	北大百二十五年史, 通説編, 251-253
Issue Date	2003-12-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/28163
Type	bulletin (article)
File Information	4(1)_251.pdf



[Instructions for use](#)

第一章 東京芝増上寺内の開拓使仮学校 一八七二—一八七五年

第一節 増上寺内への仮学校開設

北海道大学の歴史は東京の地から始まる。札幌農学校の前身、開拓使仮学校は一八七二年四月十五日、東京芝の増上寺に開設されたのである。

一八七二年一月二十日、黒田清隆開拓次官は太政官正院に対して外国人教師雇用を申請した際に、「北海道ニ於て農工業諸課学校取建可申候得共差向当地ニ於て仮小学を設ケ生徒夫々修行為致度就テ八諸学課教師雇入候用致度此段相伺候也」(『稟裁録 自明治四年至明治五年』簿書番号一〇六九七、北海道立文書館蔵)と記した。北海道に学校を設置する予定であるが、取り敢えず「当地」すなわち東京に学校を開設することにしたのである。この学校開設は「仮学校」という名称で許可される。さらに、同年三月付の「開拓使仮学校規則」の第一条では、「此学校ノ儀北海道開拓之為メニ設クルヲ以テ是レヲ彼地ノ首府タル薩字魯ニ建テ彼地ニ住スル者ヲシテ専ラ智識ヲ増シオ芸ヲ進メ是レヲ以テ開拓之資業トナサシメントノ本旨タリ然レトモ其業日浅ク事ニ就ク序有リテ彼地ニ学校ヲ建ルノ暇アラサルヲ以テ先仮学校ヲ東京ニ設ク」(札幌農学校簿書〇一五)とあり、「彼地ノ首府タル薩字魯」すなわち北海道の首府である札幌に学校を開設することが前提ではあるが、札幌が開府して日が浅いため、まずは東京に学校を仮開設したことがわかる。

開拓使は、一八七一年に増上寺旧方丈の一部を借り受けて、東京出張所の事務所として使用し、お雇い外国人の宿所としても併用した。当時、維新政府の官衙は旧大名屋敷や社寺など既存の建物が使用されており、増上寺には

開拓使のほか、海軍省や教部省大教院が置かれていた（『東京百年史』第二巻）。

仮学校開設を控えた一八七二年三月、開拓使は、旧方丈一帯の建物二五棟を買い上げ、東京出張所および仮学校として使用した。九月には増上寺内の威徳院を買い上げて出張所の事務所を移し、旧方丈全体が仮学校となった。

一八七三年の政府官庁舎配置状況には、東京の開拓使の住所は「芝増上寺山内」とあり、仮学校は「芝切通シ角」と記されている（『東京市史稿』市街篇第五六）。仮学校があつた場所は、現在、芝公園となっており、東京都港区芝公園三丁目に該当する。

第二節 札幌移転

開拓使仮学校開設当初は、農・鉱・工業に関する専門学を教授する「専門科」と、そのための基礎教育を行う「普通科」を設けていたが、一八七三年三月に一旦閉校し、生徒の学力を鑑みて専門科を廃止した。四月の再開校時には普通科のみとし、「仮学校則例」を定めて、二年後に専門科を開設することと、将来は学校を札幌に移転することを明記した（札幌農学校簿書〇〇七）。

一八七四年十一月三十日、仮学校校長心得の調所広文は開拓長官黒田清隆に対し、「農学科」（農学に関する専門科）を開設するため専門科教師の雇用を伺い出た。この中で調所は、「生徒之内追々進歩之者有之候」としながら、「万一今日ノ姿ニテ差置教師ノ出入毎二時々教則モ变革致シ候様ニテハ生徒卒業ノ目的相立不申不都合ニ奉存候」と、仮学校は教師の交代によってカリキュラムも変わるので、せつかく修学が進んできた生徒の学業に悪影響が出かねないと、仮学校の現状への危惧を述べている（札幌農学校簿書〇二五）。

さらに一八七五年二月二十三日、調所は黒田に対し、「農学科」には「マ、サ、チ、ユ、セ、ツ、ツ州」農校ノ課目ヲ取捨

し、「教頭雇入相成候上へ更ニ北海道適宜ノ教則改議致シ度」と、マサチューセッツ農科大学のカリキュラムを参考に、教頭（外国人教師の招聘を前提としている）が決まった後、北海道に適したカリキュラムを編成していくことを伺い出ている（札幌農学校簿書〇二五）。そして、三月、仮学校の札幌移転が決定した。

以上のように、一八七五年の専門科開設は既定路線であったが、仮学校はカリキュラム面で教育機関としては不安定であるという判断があり、新たな組織として専門科に確固たるカリキュラムを導入するためには、実地札幌への開設が必要とされた。仮学校の札幌移転には、十分な教育効果を期待できない仮学校自体の清算という意味合いもあつたと考えられる。

一八七五年八月、仮学校は札幌に移転し、札幌学校と改称された。翌七六年八月、マサチューセッツ農科大学長 W・S・クラークを教頭に招き、専門科として札幌農学校が開校した。

第二章 札幌農学校北一条キャンパスの形成 一八七五―一九〇三年

一八七五年、札幌学校として開校したキャンパス（便宜上、北一条キャンパスとする）は、現在札幌時計台の位置する北一条西二丁目と北二条通、北二条西二丁目を中心に学校施設を配置し、さらに北一―二条の西一丁目の区画の西側半分を含めた四街区を含む区域であった。西側を上川通（現西三丁目通）、南側を浜益通（現北一条通）、北側を札幌通（現北三条通）で囲まれた敷地で、校内諸施設は上川通側、つまり札幌本庁に対面するように建ち並んでいた。